

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成 19年 11月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670800178
法人名	社会福祉法人 鶴寿会
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	出水市汐見町89番地 (電 話) 0996-67-5626 又は 3187
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成 19 年 11 月 9 日

【情報提供票より】19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物構造	木造防火サイディング貼り 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	11,700 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	名	女性	18 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉井中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

出水平野の海岸沿いに位置し、周囲には田園風景が広がり紫尾山を望む自然豊かな環境の中にあり、広い敷地内に母体法人である福祉施設に隣接して建っている。法人全体で利用者を支援するという姿勢を持ち、医療施設や福祉施設との連携や支援を活用しながら、利用者が安心してその人らしい生活を送ることができるよう取り組んでいる。法人内の福祉施設で認知症高齢者ケアの経験をつんだ職員をグループホームに配置して、安定したケアを行う体制となっている。利用者の表情が穏やかで、職員も笑顔でともに過ごしている様子が印象的なグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回は、理念を重要事項説明書に記載していなかったが、その後、重要事項説明書に記載するよう改善している。プライバシーに関する居室のドアの透明ガラスについては職員で検討し、ガラス部分に模様入りテープを貼ることで改善している。利用者の力量に合わせた金銭の支援は、家族の理解や協力を得て自己管理を行うよう支援している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ケア会議等で評価の意義について話し合い、評価を自らのケアの振り返りの機会ととらえ、職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の開催はまだまだないが、運営推進会議の開催に向けて出席者の依頼や日程調整等の準備を進めており、近いうちに第一回運営推進会議を開催する予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や行政機関等の相談窓口の案内をしている。法人内の生活相談員が相談に対応しており、ホームに直接言いにくいことも吸い上げていく体制にしている。出てきた意見等は、速やかに改善し運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年に一度、地域のクリーン作戦に職員全員で参加している。同敷地内の福祉施設で行っている法人全体の運動会や夏祭り納涼大会等の行事に参加し、地域住民との交流に努めている。近隣の保育園や幼稚園の園児との交流の機会も多い。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念である「基本的人権の尊重」「安らぎと豊かさのある生活」「自立への援助」をグループホーム開設時より共通の理念としている。	○	グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられたことを契機に、地域密着型サービスとして何が大切かを職員全員で話し合い、グループホーム独自の理念をつくりあげていくことが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議や専門部会・検討会において、理念について話し合い共有するとともに、日々の取り組みの中で実践できているか確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に一度のクリーン作戦に職員全員で参加している。同敷地内に隣接する福祉施設で行っている法人全体の行事や運動会・夏祭り納涼大会などに参加し、地域住民との交流に努めている。近隣の幼稚園や保育園の園児との交流の機会も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケア会議等で評価の意義について話し合い、評価を自らのケアを振り返る機会ととらえ、職員全員で自己評価を実施している。改善課題については職員で検討し、迅速に具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催はまだまだないが、開催に向けて出席者の依頼や日程調整等の準備を進めており、近いうちに開催する予定である。	○	二ヶ月に一回運営推進会議を開催し、幅広い立場の人の参加を得て、利用者やホームの実情並びに評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、率直な意見を引き出しそれをサービスの向上に活かしていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体法人である福祉施設を通じて、市の担当者とグループホームを含む法人全体の問題について話し合っており、連携を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一回、支払いを兼ねて家族に来訪していただき、来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態等を報告している。遠方に住む家族には電話や手紙で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や行政機関等の相談窓口の案内をしている。母体法人の特養の生活相談員が相談に対応しており、ホームに直接言いにくいことも吸い上げていく体制にしている。出てきた意見等は、速やかに改善に取り組むように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援の重要性を十分認識しており、法人内の定期異動は行っておらず、職員の離職も少ない。新規職員は法人内の福祉施設からの経験のある職員を配置している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人の特養とともに職員育成に取り組んでいる。二ヶ月に一回の法人内研修に全員参加し、グループホーム内の勉強会を月一回行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出水地区の勉強会に管理者と職員は出席し、他グループホームとの情報交換や交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前に本人と家族にホームを見学してもらい、職員や他の利用者、サービスの場に馴染んでもらいながら、安心して利用できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	菜園作りの指導をしてもらったり、ちまき・ところてん・よもぎ団子等を作るときは、手順やコツを教えてもらっている。日々のかかわりの中で、利用者から学ばせてもらうという意識をもって接するよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を収集したり、職員で話し合い検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族の希望をとりいれ、ケア会議において職員の意見を集約し、利用者の各担当者が中心となって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一回、介護計画の見直しを行うとともに、状態の変化など新たな課題やニーズが生じた場合は、家族に相談した上で職員間で話し合い、現状に即した新しい介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お墓参り等の個別の外出支援や、家族の状況や要望に応じて病院への通院介助を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族の希望するかかりつけ医の受診の支援も行っており、協力医療機関との連携を密にとって、必要時に適切な医療を受けるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期においては、グループホームとして支援可能な範囲を話し合っており、医療施設や次の施設につなげる等、適切な援助をしていく方針であることを利用時に口頭で説明し、同意を得ている。	○	重度化した場合や終末期における事業所としての対応や支援体制について、明文化した文書を作成することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護について職員間で話し合っており、言葉かけや対応の際は常に気をつけるよう心がけている。個人記録は事務室のロッカーに保管し、個人情報の取り扱いにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての一日の流れはあるものの、食事にかかる時間や日中の過ごし方など、利用者一人ひとりのペースを尊重した暮らし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で育てた野菜を、一緒に収穫して食材に使用したり、利用者の能力を引き出しながら、下ごしらえ・配膳・後片付け等と一緒にしている。静かな雰囲気の中で落ち着いて食事ができるよう配慮しながら、一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に三回の入浴としているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。入浴の際の羞恥心への配慮や、負担感・抵抗感のある利用者への声かけや対応等に工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケや書道など趣味や特技を活かして、充実した生活を送るよう支援している。併設の福祉施設での行事への参加や交流も利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や利用者の体調を考慮しながら、散歩や玄関先のテラスで過ごす等、室内だけで過ごさずに戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある利用者の行動パターンを把握し、外出したい様子が見えるときは、声かけをしたり一緒に散歩に出る等の対応を行っている。併設の施設にも見守りの協力を依頼し、安全面に配慮しながら鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下、昼夜を想定した避難訓練を定期的に実施している。地域防災協力会との協力体制の整備や災害に備えて、備品や非常食・飲料水も準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が献立を作成しており、カロリーや栄養バランスに配慮した食事となっている。食欲のない利用者には、好みのものを個別に作る等の対応をしている。水分摂取量は、不足しないよう意識して摂取を勧めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭から自然光が入り、季節の花や装飾品など季節感を感じる家庭的な落ち着いた共用空間となっている。食堂と居間が分かれており、それぞれゆつくと過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと箆笥はホームで準備しているが、位牌・思い出の品・馴染みの装飾品・日用品等を持ち込み、安心して居心地よく過ごせる居室となるよう支援している。		